

## SER no.035; まえがき

著者	大森 康宏
雑誌名	国立民族学博物館調査報告
巻	35
ページ	1-2
発行年	2003-02-10
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10502/1508">http://hdl.handle.net/10502/1508</a>

## まえがき

大森 康宏

本書は平成6年度から始まった「新しい視覚情報開発のための民族誌映画の分析と活用」(平成6年～9年、代表者:大森康宏)の報告書である。報告書といっても文字を中心とした従来の出版書とは異なり、現実動く映像を取り込んだ報告書である。したがって報告書そのものを読むだけでは内容を理解し難く、映像を収録してあるCD-ROMを視聴してはじめて総合的な理解が可能になるように考えてある。これは、時間と音声をともなった映像が動画と文字の両方を表示することによって、それまでの文字表現による民族誌という枠から飛躍して新しい研究の糸口を見いだそうとする試みである。

3年間という期間では十分な研究のテーマをひとつに絞り込むことが難しく、統一テーマとしての画像製作はあきらめ、画像については各研究者の主張を自由に発展させて製作することとした。したがって成果の内容も、アニメーション表示についてや、メモ的映像記録の活用、博物館の保存に関わる実験映像、放送用に使用した映像などを活用、そして写真標本によるさまざまな民族誌に関わる映像と文字をもり込んだCD-ROMを完成した。

また、各自の研究分野についての文字による論考は、論文というよりも視聴者に対する解説や案内という目的で書かれている。さらにこのCD-ROM付きの民族誌は、ひとつの実験であり、完成された成果発表ではない。したがって民族学研究を発表するにあたって、文字と映像を活用して、各自の考えている独自の新しい民族誌を試みようというものである。

CD-ROMの使用容量を1人につき3MBほどに制限して、各自の研究発表に見合う企画とシナリオ作りに従事した。そのこと自体が新しい視覚情報の開発になった。時には映像資料不足のためにテーマの変更もあり、思いもよらない企画になったりした。

内容的にまとめてみると、その多くが各自制作した動く映像を活用し、表現方法を考案してCD-ROMの作成をしている。まったく新しい画像表現としては、3Dのグラフィックを作成して、過去の地理的空間を再現したハワイ先住民の居留地がある。

動画をもり込んだCD-ROMの作成であることは各自理解していたものの、静止画の写真標本とインタビューによる企画も試みた。

今回の映像と文字による報告書は、あくまでも新しい視覚情報の開発に向けての試験的な報告書であり、この程度のことなら誰にでも可能だと視聴・読者が思いついたら一応成功であると、代表者をはじめ各研究者は考えている。なぜなら、それを機会に映像を中心とした研究方法が飛躍的に発達すると思われるからである。

IT 革命と高等教育機関の変革の時代を迎えた 21 世紀，映像を活用した研究成果発表によって，マルチメディアを用いた研究が進み，それら情報の浸透によって，タテ割り型の専門的な研究分野を越えて，ヨコ割り型の研究分野が一般に普及するであろう。